学習内容報告書

学校名	那智勝浦町立宇久井中学校
授業者	１年生担任、２年生担任、串本海中公園職員

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1.　単元名

串本海中公園での飼育体験

1-2.　学年

１、２年生

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4.　単元の概要

　串本の海はラムサール国際条約の登録湿地があり、そこに多様な生物が生息し、豊かな海洋環境が形成されている。串本海中公園はその海の生物や環境を紹介するだけでなく、生物や環境の研究、体験学習する施設として大きな役割を果たしている。

　串本海中公園での飼育体験や学習・観察を通し、串本の海の生物の種類や特徴を知り、それを保護していく努力や工夫を学ぶ機会とする。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

〇和歌山県南部の海の特徴、生物の多様性を学び、それを保護し活用していく努力や工夫を知る。豊かで貴重な自然を保護していく態度を養う。

・水族館の役割やそれを支えるスタッフの役割を知る。
・魚種や特徴の違いによる飼育方法の違いや工夫を学ぶ。
・ラムサール国際条約に登録されている海の保護と活用について学び、貴重な自然環境を守る態度を育成する。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

・情報を整理・分析して、まとめ・表現する力
・課題を設定し、主体的・協働的に探求する力
・貴重な海の保護と活用に資する態度の育成

1-7.　単元の展開（全　８時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	串本海中公園見学の目的を知る。 串本海中公園の活動について知る。	・パンフレットやホームページから活動や施設の概要を学ばせる。 ・活動がどのような目的で行われているか考えさせる。
1	ラムサール国際条約について知る。 串本の海の特徴について知る。	・ラムサール国際条約の目的、対象について学ばせる。 ・串本の海が登録された理由を考えさせる。
1	海の環境を守る意義を考える。 見学のねらいを設定する。	・海の環境を守る理由や方法について考えさせる。 ・見学での各自のねらいや知りたいことを考えさせる。
4	串本海中公園の見学 ・飼育体験 ・周辺のサンゴや生物の観察 ・串本海中公園の活動と役割を学ぶ（座学）	・串本海中公園のスタッフによる飼育体験指導 ・海中観光船でのサンゴや生物の観察（スタッフの解説） ・スタッフによる講話
1	見学のまとめ	・見学や体験で学んだことから、串本海中公園の役割や活動についてまとめ、これからの自分の行動について考えさせる。

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元 | 8 | 時間中の | 4, 5, 6, 7 | 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2.　本時の目標

串本海中公園での飼育体験や学習・観察を通し、串本の海の生物の種類や特徴を知り、それを保護していく努力や工夫を学ぶ。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
１、飼育体験 ①生徒を３グループに分け、グループごとに飼育員が案内。 ②水槽で飼育する生物の特徴や飼育方法の説明。バックヤードでの飼育体験（餌やり、飼育設備の使い方）。 〈反応〉生態、体の構造や捕食方法等の詳しい解説により、生物の多様性、特徴をより知ることができた。 ③研究として行っていることの説明。 〈反応〉繁殖、飼育やウミガメの放流がどういう目的で行われているのか知ることができた。、 ④展示施設や展示方法の工夫の解説。 〈反応〉生息場所や生態に応じた飼育環境の整備や観覧者に伝わる展示方法の工夫等を知り、飼育員の仕事の重要性を知ることができた。	・生徒を誘導・指示する。 ・安全に配慮する。
２、半潜水型海中観光船での海の観察 ①串本の海の特徴、黒潮の影響による海の生物の種類等についての説明。 ②観察された魚類やサンゴについての説明。 〈反応〉実際の串本の海の様子を観察し、確かめることができた。	・安全に配慮する。 ・体調の状態を観察する。 ・観察への助言をする。

３、講座を受講 （内容）串本の海の特徴や串本海中公園の役割 〈反応〉串本の海の特別さの理由や貴重さを知り、保護活動の意義や施設の活動の重要性を認識した。また、海の環境を守る意識の醸成に役立った。	（評価）・見学や体験を積極的に行ったか。 ・質問などでより理解しようとしたか。 ・積極的にメモや記録をとっていたか。 ・メモや記録の内容が事後の学習に役立てるものになっているか。

3.　今回の活動の自己評価

今回の体験を通して、身近にある海が、貴重で多様性に富んだものであることの認識を深めることができた。その要因は以下の点である。

・紀伊半島や和歌山県の海の特徴の中で地元の海の様子を考えることができた。
・串本の海は、生物の多様性が高いことを知ることができた。
・飼育体験を通して、生き物への愛着を育むことができた。
・飼育の目的や工夫を知ることができた。
・身近な海の生物の生態や特徴を詳しく知ることができた。

よって
この学習が貴重な海の環境や生物について、自ら考え、関わろうとする態度の育成につながったものと考える。

4.　今後の課題

ふるさとを知り、大切にする心や態度を養うことを目的に地元の海や環境、漁業についての学習や体験を実施してきた。これからもこの点は重視しながらも、ローカルな視点では海のことは学びきれないことを今回の体験学習で学んだ。もっと広範囲な地球規模の環境や活動が、どのようにふるさとの海に影響があるのか、守っていけるのか、発展していけるのかを考える視点も取り入れなければならない。それにはどのような学習活動が効果的かを研究していく必要がある。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した単元ごとに作成してください。
※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。
※基本レイアウト
　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm
※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。
　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1
※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。